琉球大学学術リポジトリ

世界の人口と食糧の問題　－沖縄における海外移住促進の急務－　（No.140の続き）

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-07-11
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21154

世界の人口と食糧の問題 （No. 140の続き）

― 沖縄における海外移住促進の急務 ―

警告論文…「…存立か滅亡か」

1964年9月1日レモンド・イーウェル・ニューヨーク州立大学教授はシカゴの講演で，インド，パキスタン，中共における食糧危機は，1970年代の始めにはどうにもならない事態になるだろうと述べている。また，センFAO事務局長はユネスコ・クーリェ誌2月号の「存立か滅亡か」という論文の中で「今後20年ないし30年で人類の運命が決るだろう。人類が連帯意識を自覚せず，食糧問題に手をこまねいておれば，滅亡の道を辿るだけだ」と警告している。

※沖縄における海外移住促進の急務

以上のことから，世界は，今，人口と食糧の一大危機に直面しており，特にアジアにおいて深刻であるということを理解して頂けたと思う。

わずか，一里四方の154倍しかない琉球で，人口は既に100万を越え，人口密度は1㎢当り凡そ420人で世界最高（オランダ370人，日本270人，南米約11人）。人口増加率は年間2％に近い高率である。現在の人口を100万とみて，人口増加率を1.8～2.0％とすれば，後35～39年で，現在の2倍になる計算になる。

琉球の立地条件の下では，農工商等の産業が，大発展するという見込みはない。最近の統計書によれば，輸入は輸出の3倍余りで，経済的に自立が困難で，日本や米国の援助金と軍事基地からの収入でようやく破綻を免れている状況である。

不利な立地条件の下で，人口が過密で軍事基地があるということ等が原因となって，生存競争の激化，就職難，希望の喪失，人心の頽廃，悪質犯罪の増加，青少年の不良化等多くの問題が発生している。このような問題を根本的に解決するためには，海外移住によるしかないと思う。

琉球人が，以前から世界の各地，特に南洋諸島フィリピン，ハワイ，北米及び南米へ進出して大活躍していたことは周知の事実である。このことは我々の大きな誇りであり，移住の可能性を信ずる大きな自信でもある。

南米には，凡そ74万4千人の日系人が在住しており，その内，沖縄系の人達は約15％，11万人と推定されている。日系人（沖縄系も含めて）は，南米各地で実に素晴しく発展しつつある。例えば，ブラジルには，日系人の所有地が四国地方の3倍程あるし，パラグァイには約30万町歩ある。

ボリビヤには沖縄出身者の所有地が5万5千町歩程ある。全琉の総面積が238,822町歩で，耕地面積が約4万町歩であるから，パラグァイの移住地面積は，琉球の総面積よりはるかに大きく，ボリビヤの沖縄人所有地は，琉球の全耕地面積よりはるかに広い。

南米は，気候風土もよく，広大で無尽蔵な資源を有する新天地である。しかも我々同胞の移住と開拓を心から歓迎している。琉球の住民の三分の二はこのような無限の発展性を秘めた南米へ勇飛するべきだと思う。海外へ移住する場合，その旅費が問題であるが，何人家族であろうと，その船賃と或程度の仕度金は，1966年4月1日以降，日本政府が援助することになっている。移住するなら早い方がよい。南米現地当局者の話によると，ブラジルは後数年以内に，アルゼンチンは後15年以内にその国への移住が必ずむずかしくなるだろうとの予想である。

（新　垣　真　保）